

第37回「放送文化基金賞」

公益財団法人放送文化基金（理事長 河竹 登志夫）では、第37回放送文化基金賞を次のとおり（詳細別紙）決定しました。

1 番組部門————— 15番組、5件

- (1) テレビドキュメンタリー番組…………… 5番組
本賞—1 優秀賞—1 テレビドキュメンタリー番組賞—3
- (2) テレビドラマ番組…………… 4番組
本賞—1 優秀賞—1 テレビドラマ番組賞—2
- (3) テレビエンターテインメント番組……… 3番組
本賞—1 優秀賞—1 テレビエンターテインメント番組賞—1
- (4) ラジオ番組…………… 3番組
本賞—1 優秀賞—1 ラジオ番組賞—1
- (5) 個別分野賞…………… 5件
「演技賞」—— 2件
「演出賞」—— 1件
「制作賞」—— 2件

2 個人・グループ部門————— 9件

- (1) 放送文化…………… 4件、特別賞1件
- (2) 放送技術…………… 4件

受賞番組、受賞者には、賞牌・トロフィー、賞金を贈呈します。

賞金は、番組部門・本賞—100万円、優秀賞—50万円、各番組賞—30万円、番組部門の個別分野賞—各20万円、個人・グループ部門—各30万円です。

なお、贈呈式は、平成23年6月24日(金) 午後4時30分から千代田放送会館ホール（東京都千代田区紀尾井町）で実施します。

お問い合わせ先 放送文化基金（担当 安部）
東京都渋谷区宇田川町41—1 共同ビル5F
TEL(03)3464—3131
<http://www.hbf.or.jp>

第37回「放送文化基金賞」受賞一覧

部 門	賞 (賞金)	受 賞 者	番 組 名 ・ 業 績	
部 組 門	テレビドキュメンタリー番組	本賞 (100万円)	NHK広島放送局	NHKスペシャル 封印された原爆報告書
		優秀賞 (50万円)	テムジン、NHK	ハイビジョン特集 引き裂かれた歳月 ～証言記録・シベリア抑留～
		(30万円)	テレビ金沢	田舎のコンビニ ～一軒の商店から見た過疎の4年間～
		テレビドキュメンタリー番組賞 (30万円)	NHK広島放送局	ふるさと発スペシャル ぼっちゃん引退 ～広島・基町 名物保護司 最後の日々～
	テレビドラマ番組	(30万円)	NHK福岡放送局	NHKスペシャル “清算”の行方 ～諫早湾干拓事業の軌跡～
		本賞 (100万円)	テレビ朝日	ドラマスペシャル 遺恨あり 明治十三年最後の仇討
		優秀賞 (50万円)	NHK	大河ドラマ 龍馬伝
	テレビエントメ番組	(30万円)	日本テレビ放送網	水曜ドラマ Mother
		テレビドラマ番組賞 (30万円)	NHK	土曜ドラマ 岡本太郎生誕100年企画 『TAROの塔』
	ラジオ番組	本賞 (100万円)	毎日放送	クニマスは生きていた！ ～“奇跡の魚”はいかにして「発見」されたのか？～
		優秀賞 (50万円)	テレビ東京	久米宏・経済スペシャル 新ニッポン人の食卓
		テレビエントメ番組賞 (30万円)	中部日本放送	えんがわ ～18年目の春～
	個別分野	本賞 (100万円)	青森放送	高橋竹山生誕100年記念番組 ラジオドキュメンタリー 故郷の空に
		優秀賞 (50万円)	北海道放送	HBCラジオ開局60周年記念ドキュメンタリー インターが聴こえない ～白鳥事件60年目の真実～
		ラジオ番組賞 (30万円)	NHK	FMシアター 東京Voice
		演技賞 (20万円)	藤原 竜也	「遺恨あり」の演技
演技賞 (20万円)		寺島 しのぶ	「TAROの塔」の演技	
個人・グループ部門	演出賞 (20万円)	大友 啓史	「龍馬伝」の演出	
	制作賞 (20万円)	伊集院 要	「ぼっちゃん引退」の制作	
	制作賞 (20万円)	渡辺 英彦	「ラジオドキュメンタリー 故郷の空に」の制作	
	放送文化	(30万円)	浜村 淳 (映画評論家・パーソナリティ)	長きにわたるラジオ番組での優れた「語り」
		(30万円)	小野 さおり (NHK音響デザイン部 チーフディレクター)	NHKスペシャルをはじめとするドキュメンタリー番組の優れた音響デザイン
		(30万円)	「きらつといきる・バリバラ」制作グループ (NHK大阪放送局)	「障害者の障害者によるバラエティー番組」の制作により、障害者の描き方の新生面を開拓
		(30万円)	戦争証言プロジェクト (NHK)	太平洋戦争における戦争体験の記録・収集・公開
	特別賞	児玉 清 (俳優)	放送界における幅広い分野での長きにわたる活躍により、放送文化の発展に寄与	
	放送技術	(30万円)	ファイルベースによる統合型ニュース制作システム開発チーム 代表 山本 智 (フジテレビジョン)	ファイルベースによる統合型ニュース制作システムの開発
		(30万円)	ギャップファイラーシステムの開発・普及促進グループ 代表 岩田 昭光 (NHKアイテック)	ギャップファイラーシステムの開発および普及促進
(30万円)		低遅延送り返し装置開発グループ 代表 牧野 鉄雄 (日本テレビ放送網)	番組制作用低遅延送り返し装置の開発	
(30万円)		マルチバンドISDB-T伝送方式開発グループ 代表 高田 政幸 (NHK)	マルチバンドISDB-T伝送方式と送受信装置の開発と実用化	

*番組部門の各番組賞と個人・グループ部門は、受付順による。

第37回 放送文化基金賞

「番組部門」

— テレビドキュメンタリー番組 —

本 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概 要	選 考 理 由
NHKスペシャル 封印された原爆報告書 平成 22. 8. 6 (金) NHK広島放送局	制作統括 春原 雄策 ディレクター 松木 秀文 五十嵐哲郎 撮影 坪内 俊治 照明 馬渡 則生 編集 山内 明 音響効果 小野さおり 語り 伊東 敏恵	アメリカ国立公文書館のGHQ機密資料の中に、181冊、1万ページに及ぶ広島・長崎の原爆被害の調査報告書が眠っている。子供たちが学校のどこで、どのように亡くなったのか詳しく調べたものや、200人を超す被爆者を解剖し、放射線による影響を分析したもの。いずれも原爆被害の実態を生々しく伝える内容だ。報告書をまとめたのは、総勢1300人に上る日本の調査団。国を代表する医師や科学者らが参加した。調査は、終戦直後から2年にわたって行われたが、その結果はすべて原爆の“効果”を知りたがっていたアメリカへと渡されていたのだ。なぜ貴重な資料が、被爆者のために活かされることなく、長年、封印されていたのか？報告書から浮かび上がってきたのは、自国の核開発のために原爆被害の詳細なデータを是非利用したいアメリカと、戦争責任を軽減するために被爆者の貴重な記録を売り渡した“被爆国”日本の実相だった。	181冊の報告書は、日本では未公開の貴重な資料が数多く含まれていた。これら資料を全て入手し、日米間に横たわる衝撃的な事実を明らかにしている。 膨大な英文の報告書の解読、分析はもちろん、日米両国で高齢の当事者たちを捜し出し、原爆被害の調査報告書に関する重い証言を集めた粘り強い取材力が調査報道のドキュメンタリーの質を大いに高めた。

優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概 要	選 考 理 由
ハイビジョン特集 引き裂かれた歳月 証言記録・シベリア 抑留 平成 22. 11. 28 (日) テムジン NHK	制作統括 伊藤 純 藤田 英世 プロデューサー 矢島 良彰 ディレクター 小柳ちひろ 栗田 和久 取材 太田 宏一 出演 元シベリア抑留者 26名	終戦直後、満州などにいた日本軍将兵や民間人がソ連に連行され、長期に渡り強制労働を強いられたシベリア抑留。50万人以上の日本人が抑留され、少なくとも5万5千人が命を落としたといわれる。番組では、26人の元抑留者の証言を記録。下級兵士から将校、アクチブと反動分子、吊し上げを受けた者と吊し上げに加わった者など、あらゆる立場の元抑留者からの証言を聞き取り、これまで語られることのなかった日本人同士が激しく対立した悲劇の実像に迫った。そこから浮かび上がるのは、戦争と国家に翻弄され、自らの信念と反する行為を強いられた抑留体験であり、悔悟の念を抱えて生きてきた姿である。	99分という番組の長さを感じさせない労作。 戦争はこんなにも人間性を追いつめるものか。壮絶なシベリア抑留の実像を老齢化の極みにある人達の多様な証言で緻密にまとめ上げている。 今、元シベリア抑留者の証言を記録しておかなければ、やがて風化してしまうという危機感が、力ある取材・制作の原動力になっている秀作。

テレビドキュメンタリー番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概 要	選 考 理 由
<p>田舎のコンビニ 一軒の商店から見た 過疎の4年間</p> <p>平成 22. 5. 26 (水)</p> <p>テレビ金沢</p>	<p>タイトル 中村 真澄 ミキサー 本多 周平 構成・撮影・ 編集 辻本 昌平 ディレクター・ナ レーター 中崎 清栄 プロデューサー 高田 直彦 出演 藪越美和子</p>	<p>住民の半数が65歳以上という 限界集落である石川県穴水町甲 地区。一人暮らしの高齢者や老老 介護も多いこの町にある「やぶこ し商店」店主の藪越美和子さん は、複合型大型店の進出で売り上 げが落ちる中、交通手段を持たな いお年寄りのために、診療所や農 協への送迎や宅配サービスを引 き受ける。親戚のような付き合い 方で接する美和子さんの努力も、 過疎化のスピードにはかなわな い。お年寄りが心のよりどころと している一軒の田舎のコンビニ を、4年間に亘り継続取材し、女 性店主を主人公に、失われつつあ る人情を描きながら、深刻さを増 す過疎と高齢化の現状を訴える。</p>	<p>ある日常的な出来事 を、一人のディレクタ ーの目線で丹念に追っ ていく中で、その背後 にある大きな問題を浮 き彫りにした。崩壊し ていく日本の田舎が静 かに的確に切り取られ ている。 エネルギーで快 活、かつ温かい人柄の 店主美和子さんに支え られて、本来の暗いテ ーマは、全体的に明る い落ち着いた、ほのぼ のとした番組になって いる。</p>
<p>ふるさと発スペシャ ル ばっちゃん引退 ～広島・基町 名物 保護司 最後の日々 ～</p> <p>平成 23. 1. 14 (金)</p> <p>NHK広島放送局</p>	<p>制作統括 松永 真一 ディレクター・撮 影・語り 伊集院 要 取材 亀山 暁 編集 檜山 恭子 音響効果 谷口 文雄 出演 中本 忠子</p>	<p>非行少年が親しみをこめ「ばっ ちゃん」と呼ぶ保護司がいる。広 島市基町で30年にわたり非行少 年と向き合ってきた中本忠子さ ん(76歳)だ。保護司とは、保 護観察処分となった人などの更 正を手助けする地域のボランテ ィア。子どもの不良化は家で食事 を取れないことから始まると考 えていた中本さんは、自宅を開放 して手料理を振る舞い、彼らの声 に耳を傾け、その多くを更正させ てきた。付き合ってきた子ども達 は300人を越える。2010年11月、 保護司としての定年を迎えた。 「更正には地域の力が必要」と、 自分の役割を地域に託そうと奮 闘する最後の日々に密着した。</p>	<p>カメラの存在を感じ させない取材で、「ば っちゃん」こと中本忠 子さんのもとに通っ てくる少年たちの表情を よくとらえていた。取 材者がその場に溶け込 み、信頼関係をしっか り築いてきたことが良 く分かる作品。 取材対象者との距離 が気持ちのいいカメラ ワークだった。</p>
<p>NHKスペシャル “清算”の行方～諫 早湾干拓事業の軌跡 ～</p> <p>平成 23. 1. 29 (土)</p> <p>NHK福岡放送局</p>	<p>ナレーション 松重 豊 撮影 俣野 周作 音声 松本 一宏 照明 関口 実 音響効果 小野さおり 編集 草場 一友 ディレクター 松本 卓臣 制作統括 吉光 賢之</p>	<p>異例の“完成した巨大公共事業 見直し”が決定した国営諫早湾干 拓事業。しかし、多額の投資をし て干拓地に入植した農家や事業 を推進してきた地元長崎県は激 しく反発し、地域は混迷を深めて いる。1997年、鉄の“ギロチン” 排水門が締め切られた。海の環境 悪化や漁業被害に苦しんできた 漁師たちは見直しを求めてきた。 最初の構想から59年、総工費 2500億円、国が事業を推し進め るために行ってきた環境調査や 地元調整の知られざる実態を明 らかにし、歴史的な見直し決定と 清算の難しさ、そして公共事業が 残した負の遺産の大きさを描く。</p>	<p>国が改ざん、捏造し た報告書の入手など資 料がしっかりしており、 国の大型公共事業を めぐる場当たりのな 行政を鋭く指摘した調 査報道。 大型公共事業に対す る反対者も賛成者も結 局、国に振り回され最 後は大きな痛手を負う 現実に、国とは、公共 事業とは何なのかを問 う、広がりのある優れ た作品。</p>

第37回 放送文化基金賞
「番組部門」
－ テレビドラマ番組 －

本 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概 要	選考理由
<p>ドラマスペシャル 遺恨あり 明治十三年最後の 仇討</p> <p>平成 23. 2. 26 (土)</p> <p>テレビ朝日</p>	<p>吉村昭「最後の仇討」より (新潮文庫「敵討」所収)</p> <p>脚本 後藤 法子 源 孝志</p> <p>監督 源 孝志</p> <p>チーフプロデューサー 田中 芳之 菅井 敦</p> <p>プロデューサー 西 勇哉 梶野 祐司 槇 哲也</p> <p>音楽 溝口 肇</p> <p>制作協力 東映京都撮 影所</p> <p>出演 藤原 竜也 松下 奈緒 小澤 征悦 吉岡 秀隆 北大路欣也 ほか</p>	<p>時は幕末、九州の小藩・秋月藩で、開国と藩の近代化を提唱する執政・臼井亘理とその妻・清が、攘夷派の何者かに惨殺された。亘理の息子・六郎(藤原竜也)は、父母の亡骸の前に仇討を誓うが、時代は明治へと変わり、近代法治国家を目指す政府は「仇討禁止令」を發布、700年の長きにわたり「武士の美德」とされた仇討は、「単なる殺人」とされてしまう。しかし、六郎は剣豪・山岡鉄舟(北大路欣也)の下で剣の修行を重ね、また臼井家の下女であったなか(松下奈緒)の支えを受け、13年の艱難辛苦の末に仇敵、一瀬直久(小澤征悦)を討つ。世論は、「名誉の仇討」か「殺人という憎むべき犯罪」かで二分される。一方、裁判を受け持つ判事・中江正嗣(吉岡秀隆)は取調べを重ねるうちに「法の理想」と「武士の心」との間で葛藤する。果たして、六郎の判決はどうか。「生きるとは憎むことだった」と口にする六郎の行き着くところにあるものは…。</p>	<p>幕末から明治へと時代が転換する狭間で起きた武士の仇討事件を司法はどう裁いたか、という重いテーマを硬質なドラマに仕上げた力量が評価された。</p> <p>また、裁判員制度の導入など時代とともに移り変わる今日の司法制度と、裁きに対する日本人の意識の変遷を、実話をもとに現代に改めて投げかけた点も高く評価された。</p> <p>矜持と葛藤に揺れる青年武士の精神のありようを尖鋭に演じた藤原竜也をはじめ、主役・脇役の演技力も作品の完成度に大きく寄与している。</p>

優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概 要	選考理由
<p>大河ドラマ 龍馬伝</p> <p>平成 22. 1. 3 (日) □ 11. 28 (日) <全 48 回> 応募は第 36 回、第 46 回</p> <p>NHK</p>	<p>作 福田 靖</p> <p>音楽 佐藤 直紀</p> <p>制作統括 鈴木 圭</p> <p>プロデューサー 岩谷可奈子</p> <p>演出 土屋 勝裕 大友 啓史 真鍋 斎 渡辺 一貴 梶原 登城</p> <p>出演 福山 雅治 香川 照之 真木よう子 近藤 正臣 寺島しのぶ 谷原 章介 高橋 克実 蟹江 敬三 倍賞美津子 寛 利夫 青木 崇高 ほか</p>	<p>幕末を駆け抜けた風雲児・坂本龍馬 33年の生涯を、幕末屈指の経済人・岩崎弥太郎の視線から描く。龍馬の行くところ、土佐から江戸、そして世界へ、時代が怒涛のように動き始める。日本を西洋列強に負けぬ国にするために、龍馬は日本中を駆け巡る。長崎で再会した弥太郎と龍馬は海運業を始めるが、龍馬は志半ばで暗殺される。「世界の海援隊を作る」龍馬の志は弥太郎に引き継がれていく。龍馬の妻・お龍、また、幕末日本を動かした西郷隆盛、桂小五郎、勝海舟ら若き志士達が龍馬の伝説を彩る。名も無き若者が世界を動かす「龍」へと成長していく姿を全 48 回で描く。</p>	<p>従来大河ドラマの作風、映像を一変させた。</p> <p>新しいリーダー像、斬新な作風や躍動するカメラアングル、巧みに陰影を切り取る映像の妙、心のひだまでを描く巧みな演出が高く評価された。</p> <p>重層感のある映像には、これまでの大河ドラマになかった心象領域の広がりを感じさせた。</p>

テレビドラマ番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概 要	選 考 理 由
<p>水曜ドラマ M o t h e r</p> <p>平成 22. 4. 14 (水) □ 6. 23 (水) 〈全 11 回〉 応募は第 1 回</p> <p>日本テレビ放送網</p>	<p>脚本 坂元 裕二 音楽 REMEDIOS プロデューサー 次屋 尚 千葉 行利 監督 水田 伸生 長沼 誠 出演 松雪 泰子 芦田 愛菜 山本 耕史 酒井 若菜 倉科 カナ 尾野真千子 高畑 淳子 田中 裕子 ほか</p>	<p>30 代半ばまで恋人も作らず結婚もしない鈴原奈緒 (松雪泰子) は、代用の小学校の教壇で一人の少女、道木怜南 (芦田愛菜) と出会う。大人びた気持ちの悪い子と思っていた奈緒だが、怜南が虐待を受けていることを知り、自分でも理解できない衝動に突き動かされ、怜南を誘拐して彼女の母親になることを決意する。逃亡生活をするようになった二人は、奈緒の母や姉妹達を頼ることになる。次第に、奈緒が起こした行動の本当の理由が明らかになる。「母性」をキーワードに、女性たちが自分を見つめ直し、生き方を探し求めていく物語。</p>	<p>教え子の虐待に直面し、ついに誘拐、逃亡を図る女性教師の物語。児童虐待や母子家庭という今日の問題を扱った見応えのある作品。</p> <p>オリジナル脚本の意図を陰影に富む映像で丁寧に描き、リアリティーのあるドラマとして成功している。</p>
<p>土曜ドラマ 岡本太郎生誕 100 年 企画『TARO の塔』</p> <p>平成 23. 2. 26 (土) □ 4. 2 (土) 〈全 4 回〉 応募は第 1 回、第 2 回</p> <p>NHK</p>	<p>作 大森寿美男 音楽 □ 島 邦明 制作統括 訓覇 圭 出水 有三 演出 柳川 善郎 出演 松尾スズキ 常盤 貴子 田辺 誠一 濱田 岳 成宮 寛貴 高澤父母道 小日向文世 西田 敏行 寺島しのぶ ほか</p>	<p>「芸術は爆発だ！」数々の刺激的な作品と言動で世界を挑発し続けた芸術家・岡本太郎。2011 年 2 月 26 日、生誕 100 年を迎えた。太郎が命を賭けて打ち立てた“ベラボナーなもの！”1970 年「日本万博博覧会」の“太陽の塔”は、会場を訪れた 6400 万人を熱狂に包み込み、世界に日本の存在をアピールした。今も我々を魅了してやまない畏敬の塔に込められたメッセージとは一体何だったのか？</p> <p>“太陽の塔”が完成するまでの軌跡を縦軸に“聖家族”と賛嘆された「岡本家」の破天荒な家族模様を描き込み、伝説の芸術家・岡本太郎の知られざる全貌をドラマ化。</p>	<p>内向きになった現代の日本人とはかけ離れた、組織や他人の評価にとらわれない岡本太郎の異端の人生を掘り下げ、父・一平、母・かの子という芸術一家の壮絶な人間関係にも果敢に挑戦している点が評価された。</p> <p>再生と復興を目指す今の日本人にとっても意義深いドラマになっている。</p>

第37回 放送文化基金賞
「番組部門」
— テレビエンターテインメント 番組 —

本 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概 要	選 考 理 由
クニマスは生きていた！ “奇跡の魚”はいかにして「発見」されたのか？ 平成 23. 1. 15(土) 毎日放送	プロデューサー 尾 寄 豪 ディレクター 郷 原 宏久 撮影 飯 坂 知也 小 松 繁 構成 杉 本 つ よ し ナレーション 西 靖 出演 中 坊 徹 次 さ かな くん	2010年12月14日、秋田県田沢湖の固有種であり、生物学的にも希少な生態を持つ魚「クニマス」が70年の時を超え、国内の別の湖で奇跡的に生息していることが確認された。 クニマスは、1940年ごろ田沢湖に強酸性の水が入り、死滅したとされていた。発見したのは、京都大学の中坊徹次教授のチーム。その発見には、さかなくんも大きく貢献した。中坊教授が、東京海洋大客員准教授のさかなくんに死滅したクニマスの絵を描いてほしいと依頼。さかなくんが特徴の似た、山梨県西湖の「ヒメマス」を取り寄せたところ、クニマスと非常に似ていた。そこで、西湖からあらためて捕獲した計9匹の魚を分析。えらや消化器官の構造がクニマスと一致し、大発見となった。カメラは、クニマスの捕獲、研究、解析、発表にいたるまで、「奇跡の魚」の再発見を現場で一部始終捉えた。	絶滅種が偶然発見された瞬間をとらえ自然界の奇跡を感動的に伝えた。死滅したとされるクニマスの絵を描くだけの段階から始まり、最後は生きたクニマスの大発見につながるドキュメンタリー風の丁寧な取材と構成はバラエティの枠をこえた秀逸な番組になった。 イラストも上手く使いながら、自然科学上の発見の過程を視聴者にわかりやすく伝えている。

優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概 要	選 考 理 由
久米宏・経済スペシャル 新ニッポン人の食卓 平成 22. 11. 14 (日) テレビ東京	プロデューサー 野 口 雄 史 和田 佳 恵 チーフディレクター 徳 光 崇 臣 ディレクター 片 岡 賢 蔵 司会 久 米 宏 ゲスト 春 風 亭 昇 太 渡 辺 満 里 奈 制作協力 日 経 映 像 オ フィ ス ・ ト ウ ー ・ ヲ ン	日本人の新しい価値観を探る「久米宏・経済スペシャル」シリーズの3回目で、テーマは「激変する日本人の食卓」。 かつて母から娘へと受け継がれてきた「オフクロの味」はどこへ行ったのか。実は「現代のオフクロの味」は企業が作っているという実態があった。 さらに現代主婦の食卓のルーツ源流を探るため、その母親世代である「70代の女性たち」にも取材。70代女性は、“ニッポン初のOL”世代。華やかなOL生活を謳歌した最先端女性だった。そんな70代女性と娘の関係を取材していくと、「オフクロの味をあえて伝えなかった」という隠された事実が明らかになった。	現代主婦の食卓のルーツが母親世代にあるとした切り口が斬新。 昭和40年代の「元祖新ニッポン人」だった母親世代に焦点を当てた企画がひかり、「夫」、「子」の世代も十分楽しめる番組だった。

テレビエンターテインメント番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概 要	選 考 理 由
<p>えんがわ ～18年目の春～</p> <p>平成 22. 5. 30 (日)</p> <p>中部日本放送</p>	<p>プロデューサー・ 藤井 稔 ディレクター 撮影 谷口たつみ 音響効果 大沼 賢一 ナレーション つボイノリオ 出演 矢野 年子 津田智多代 佐野百合子 蟹江美根代</p>	<p>「きんさん・ぎんさん」が大人気になってから、はや18年。故・蟹江ぎんさんの娘、四人姉妹の日常を描いた。</p> <p>彼女たちの平均年齢は90歳。四人揃って今も健在。暇さえあれば、茶飲み話に花を咲かせている。</p> <p>長女・年子さん(96)と次女・智多代さん(92)は、お互いのご主人を亡くし、二人で暮らしている。三女・百合子さん(89)は、近くのスーパーまで自転車で出かけるほどの健脚。四女・美根代さん(86)は、今も車のハンドルを握っている。</p> <p>「四姉妹揃って元気で長生き」ということ以外は、極々普通のおばあちゃんたちの日常素描。</p>	<p>四姉妹の人物像自体が計算も及ばない面白さをみせ、また「えんがわ」にこだわって撮り続けた制作者の視点が、元気で長生きの秘訣を素直に伝えている心暖まる番組。</p>

第37回 放送文化基金賞

「番組部門」

— ラジオ番組 —

本 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概 要	選 考 理 由
高橋竹山生誕100年記念番組 ラジオドキュメンタリー 故郷の空に 平成 22. 11. 28 (日) 青森放送	プロデューサー 大友 寿郎 ディレクター 渡辺 英彦 構成 須藤 喜夫 ナレーター 鮫島 大史 秋山 博子 出演 高橋 竹山 高橋 哲子 西川 洋子 二代目 高橋 竹山	2010年は津軽三味線の名人・高橋竹山(1910～98)生誕100年の年。竹山は青森県平内町で生まれ、2歳の頃、麻疹をこじらせ半ば失明する。孫の哲子さんは、目が不自由だった竹山が日記代わりに吹き込んだカセットテープや、哲子さんに民謡を教えていた時に録音したカセットテープを大切に持っていた。そこにある竹山の肉声は、これまで未発表のものである。 竹山はどんなに忙しい時も故郷・平内町で「民謡会」を必ず行い、地元の舞台だけで演じる慢芸も披露していた。喉頭がんで体調を崩し、全国各地の演奏会を全て中止した後も、この「民謡会」だけは続けていた。今でも故郷の人々の心に深く刻まれている高橋竹山が故郷に残したものは何だったのか。貴重な肉声と家族、弟子たちの証言、そして力強い三味線の演奏をコラージュし、竹山の肖像を探った。	未発表の高橋竹山の肉声のテープを基に、竹山の私的な語り、歌声、三味線の音色を織り交ぜながら、津軽の風土と竹山の魅力を余すところなく伝える優れたドキュメンタリー企画になっている。

優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概 要	選 考 理 由
HBCラジオ開局60周年記念ドキュメンタリー インターが聴こえない ～白鳥事件60年目の真実～ 平成 23. 3. 27 (日) 北海道放送	ナレーター 河原多恵子 田村 英一 手記朗読 吉田 精司 高田 豊 技術 霜田 千晶 構成 後藤 篤志	戦後の混乱が続き、貧しさのどん底だった1952年冬、札幌市内で警察官が射殺され、いわゆる白鳥(しらとり)事件がおきた。警察は武装闘争に走っていた当時の日本共産党のテロと断定し、多数の労働者や北海道大学の学生らを逮捕、指名手配した。 「日本の黒い霧」のひとつにもあげられたこの白鳥事件は、海外逃亡による時効停止で、逮捕状は今でも更新され、今も尚続いている。事件発生から60年目を迎え、はじめて明らかになる事実と共に、国際労働歌「インターナショナル」を歌った若者たちの青春の光と、長く尾を引く影をたどる。	白鳥事件を通して、戦後日本の政治、社会状況や国際情勢の大きな流れと、その中で青春を賭けた若者たちの過去から現在までの姿を分かりやすく描き、最後まで聴く人を飽きさせない構成になった。 ある意味、戦後日本の青春群像を描いた意欲的なドキュメンタリーである。

ラジオ番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概 要	選 考 理 由
FMシアター 東京Voice 平成 23. 1. 8 (土) NHK	作 原田 裕文 音楽 菅谷 昌弘 制作統括 小見山佳典 技術 松本 恒雄 音響効果 石川 恭男 演出 佐々木正之 出演 三田村陽斗 中川 晃教 竹本 孝之 草村 礼子 南谷和加子 岡本富士太 柳澤 慎一 大高 洋夫 山崎千恵子	武田勝（三田村陽斗）は、変声期障害を持つ大学生。20歳になっても小学生の頃と変わらない声にコンプレックスを持ち、就職前に声の整形手術をするかどうかで悩んでいる。 彼の特技はその声を活かした腹話術。理髪店をしていた亡き父（岡本富士太）が子どもの散髪の時に始めた技を受け継いだのだった。伝説のロック歌手だった父とそっくりの声に悩む歌手志望の先輩・佐野春彦（竹本孝之）やアルバイト仲間（性同一性障害から声の整形手術をした松田優（中川晃教）らと出会い、自分の声を変えるということの意味にあらためて気づき、人間として成長していく姿を描く。	「声変わり障害」というラジオでは意表をついた題材で、「声」にこだわった作品。特技は腹話術など、ラジオならではのユーモア溢れる作品に仕上げている。

第37回放送文化基金賞

「番組部門」— 個別分野 —

演技賞

受賞者	対象番組	選考理由等
ふじわら たつや 藤原 竜也	遺恨あり 明治十三年最後の仇討 (テレビ朝日) テレビドラマ番組	親の仇を討つということについて、武士の誇りや親子の情、また女性への思いといった、繊細かつ強靱な心のありようを静かに熱く演じ、視聴者を惹きこむ演技。

演技賞

てらじま 寺島 しのぶ	岡本太郎生誕100年企画 『TAROの塔』 (NHK) テレビドラマ番組	自らの気配を完璧に消し、「岡本かの子」のイメージのみを現出させた、「本物のかの子よりも、かの子らしい」と言わしめた熱のこもった演技。
----------------	---------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------

演出賞

おおとも けいし 大友 啓史	大河ドラマ 龍馬伝 (NHK) テレビドラマ番組	新しいリーダー像、斬新な作風や映像の妙、心のひだまでを描く巧みな演出が、この作品の完成度を高めた。
-------------------	------------------------------------	---------------------------------------------------

制作賞

いじゅういん よう 伊集院 要	ばっちゃん引退 (NHK広島放送局) テレビドキュメンタリー番組	ディレクターひとりで撮影、語りも担当し、取材対象者との関係を見事につくりあげ、制作した。
--------------------	--------------------------------------------	----------------------------------------------

制作賞

わたなべ ひでひこ 渡辺 英彦	ラジオドキュメンタリー 故郷の空に (青森放送) ラジオ番組	未発表のテープを発見し、高橋竹山の公私に残した声と三味線の音を見事にコラージュ。竹山の魅力と津軽の風土を伝えた。
--------------------	---------------------------------------------	----------------------------------------------------------

第37回放送文化基金賞
「個人・グループ部門」
－ 放送文化 －

受賞者	業績	業績内容・選考理由
はまむら じゅん 浜村 淳 (映画評論家・パーソナリティ)	長きにわたるラジオ番組での優れた「語り」	毎日放送ラジオのパーソナリティとして、1972年から週1回土曜日の『ごめんやす浜村淳です』、74年からは月～土曜日の朝の帯番組『ありがとう浜村淳です』を放送し続けている。「さて、みなさん・・・」で始まる七五調の語りは、時事話や映画解説等を常に判りやすく、かつ、頭の中にイメージが浮かぶ語りに努めており、「浜村節」として聴取者に認められ人気を得ている。地域に根ざした長寿番組を支えてきた功績は大きい。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
おの さおり 小野 さおり (NHK音響デザイン部チーフディレクター)	NHKスペシャルをはじめとするドキュメンタリー番組の優れた音響デザイン	1987年にNHK初の女性音響デザイナーとして入局、近年はドキュメンタリーにおける音響効果の第一人者として、NHKスペシャル『密使 若泉敬 沖縄返還の代償』『無縁社会』、クローズアップ現代等、多くの難しいテーマの番組で優れたサウンドデザイン能力を発揮してきた。NHKスペシャルシリーズのコンセプトを浮き彫りにする音楽制作や、現実には鋭く迫る選曲表現で番組の作品性を多に高めるとともに、視聴者に大きな感動を与えている。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
「きらっといきる・バリバラ」制作グループ (NHK大阪放送局)	「障害者の障害者によるバラエティー番組」の制作により、障害者の描き方の新生面を開拓	『バリバラ』は、既存のメディアによって作られてきた「障害者＝大変、頑張っている」というステレオタイプな描き方に風穴を開けた日本のテレビ史上初の障害者バラエティー番組。障害者自らが企画に参加し、「笑われるのではなく、笑わせる」番組を目指すことで、健常者が障害者を特別視する壁を取り払い、同じ人として互いの距離を縮めるのに大きな役割を果たした。斬新な発想で福祉番組の新たな境地を切り拓いた。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
戦争証言プロジェクト (NHK)	太平洋戦争における戦争体験の記録・収集・公開	太平洋戦争の体験者の証言を体系的に収集することを目的に、4年前に発足した戦争証言プロジェクト。これまで700人以上を取材し、70本以上の番組を制作してきた。さらに、収集した証言を「社会の共有財産」として誰もが無料で視聴できるよう、放送局として、世界初のインターネットサイト「戦争証言アーカイブス」を設立。関連番組や戦時録音記録も同時に公開している。忘れてはならない時代の記録を、デジタル時代にふさわしい形で後世に伝える意欲的な取り組み。

【特別賞】

受賞者	業績	業績内容・選考理由
こだま きよし 児玉 清 (俳優)	放送界における幅広い分野での長きにわたる活躍により、放送文化の発展に寄与	1958年東宝映画の専属俳優としてデビュー。67年にフリーとなり、映画、ドラマ出演、司会など幅広い分野で活躍。読書家としても知られ、NHK-BSの『週刊ブックレビュー』の司会を18年間務め、好奇心溢れるコメントで本の魅力を伝えた。また、朝日放送の『パネルクイズ・アタックチャンス25』で、36年続く番組の顔として、切れのある名司会振りを発揮。テレビドラマ出演としては昨年、NHK大河ドラマ『龍馬伝』で坂本龍馬の父、八平を演じ、遺作となった。5月16日逝去。民放、NHKを越えて広く放送界で活躍し、放送文化の発展に貢献した。

第37回放送文化基金賞

「個人・グループ部門」

－ 放送技術 －

受賞者	業績	業績内容・選考理由
ファイルベースによる統合型ニュース制作システム開発チーム 代表 山本 智 (フジテレビジョン)	ファイルベースによる統合型ニュース制作システムの開発	積極的にIP技術を採用し、報道番組制作システム全体のファイル化を実現した。これにより、映像素材とメタデータの一元的な管理と素材運用の利便性を高めることができ、素材コストは大幅に削減された。さらに、番組制作の大幅なスピードアップや番組編成の柔軟性を向上させ、迅速な報道番組の制作に大きく貢献した。また、社内外とのファイルによる素材交換が可能となり、コスト低減が図られた。東日本大震災の災害報道でもフル稼働した。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
ギャップフィルターシステムの開発・普及促進グループ 代表 岩田 昭光 (NHKアイテック)	ギャップフィルターシステムの開発および普及促進	山間部や高層ビルの陰、地下街など地上デジタル放送の電波を直接受信できない地区・地域に、無線を使って難視聴を解消するギャップフィルター（無線共聴）を開発。和歌山県紀美野町、愛媛県大洲町、北海道白老町ほか、全国75地区、306局を設置し、これまで約2万5千世帯の難視聴を解消した。ワンセグ受信も可能なことから、今後共聴設備の老朽化に伴う代替え設備として、地域情報や防災情報などの伝達にも役立つことが期待される。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
低遅延送り返し装置開発グループ 代表 牧野 鉄雄 (日本テレビ放送網)	番組制作用低遅延送り返し装置の開発	地上アナログ放送では、中継現場での送り返しモニターとして放送波を使用してきたが、地上デジタルの放送では遅延時間が大きく（約2.4秒）、送り返しモニターとして使用できない。このため独自の映像コーデックを考案し、インターネット、携帯電話などの公衆回線を使用し、遅延時間が0.1秒以下の送り返しモニターシステムを開発した。カナダ冬季オリンピックなど海外中継にも使用され、これまでに150セットが商品化され、各放送局で広く利用されている。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
マルチバンドISDB-T伝送方式開発グループ 代表 高田 政幸 (NHK)	マルチバンドISDB-T伝送方式と送受信装置の開発と実用化	日本の地上デジタル放送ISDB-Tが世界に広く普及するように、6,7,8MHzいずれの帯域幅にも対応したマルチバンドISDB-Tの伝送方式、変調方式、受信機(STB)を開発・実用化し、ITU-R国際標準勧告として承認された。日本方式はチャンネル帯域幅6MHzの中南米を中心に11カ国で採用されているが、今後アジア、アフリカなどチャンネル帯域幅7,8MHzの国々への普及に向けて、大いに期待される。